

2024（令和6）年9月15日（日曜日）に開催された外国籍県民かながわ会議（第12期・第11回）の議事録は次のとおり。

1 開会 （事務局）

- ・ 会議のルール、録音、傍聴者、欠席者及び配付資料について説明した。

2 全体会議 （柳 晴 実 委員長）

- ・ 本日は時間がタイトなので、参加人数は少ないがしっかりと議論したい。
- ・ 前回の会議ではかながわ国際政策推進懇話会の田口委員にお越しいただき、お話を伺った。伺った内容をもとに提言案を修正し、各部会で話し合っ
て最終的な提言案としてまとめたものが、本日の資料に反映されている。
- ・ 本日はまず、各部会で修正した提言案について全体会議で共有して、
全体的な意見交換をしたい。また、実際に提言する項目についても最終
的な確認をしたい。ハリロバ委員からは別の提言案について意見をいただい
ているので、その点も少しお話ししたい。
- ・ これまでは提言の中身について話をしてきたが、今日は最終報告書の
構成と、サブタイトルを決めたいと思っている。
- ・ そこまで決まったら、部会に分かれて、各部会の提言案の記載内容が全体
で決めた構成どおりになっているか御確認いただきたい。もし足りない部分
があったらどうするかを部会で話してほしい。
- ・ 最後にもう一度全体会議で、話し合った内容を報告していただく。また、
あーすフェスタ 2024に向けた現在の状況について、私から話したい。
- ・ では、さっそく会議を開始する。資料1を御覧いただきたい。
- ・ 各部会から最終的な提言案の内容を簡単に説明いただいてから、全体で
意見交換という形を取りたい。まず、情報部会からお願いしたい。

（ロボ ナシメント 部会長）

- ・ 一つ目の「神奈川県ホームページの外国籍県民に対する情報提供の管理
改善」から説明する。前回の会議で話した内容を受けて、一部修正した。
- ・ どのような形でホームページを改善したらよいか分かるように、横浜市
のホームページのスクリーンショットを入れた。

- ・ 今の神奈川県いま かながわけんのトップページは、日本語が分からない方への対応がうまく行おこなわれていないので、どうやったらそれを改善かいぜんできるか考かんがえた。
- ・ 横浜市のホームページには「Language」というリンクがある。その代わりかに地球のマークを使用した方が、言葉で表あらわ現するより適切だと思おもう。
- ・ 神奈川県が実際に対応する場合は、県内に住んでいる外国人の国籍別の割合を把握して、それに応じて言語を決めるとよいと思おもう。
- ・ 二つ目の提言案について、何か修しゆ正した部分があるか。

(河 相宇 委員)

- ・ 特に修しゆ正していない。

(ロボ ナシメント 部会長)

- ・ 三つ目の提言案は、部会を通さず岩松委員から直接事務局に送付されたものであるため、どの部分を修しゆ正したのか分からない。

(事務局)

- ・ 事務局から補足する。前回の会議で懇話会の田口委員からいただいた御意見をうけて、理由の欄が修しゆ正されている。日本語をメインで教わる理由、オンライン授業を実際開始するまでの課題、実施する時間帯の検討について、追記されている。

(柳 晴 実 委員長)

- ・ 田口委員の話として、授業を始めるまで、つながるまでが大変だという話があったが、その部分が追記されたと思おもう。
- ・ 次に、次世代・教育部会の提言案について説明をお願いしたい。

(肖 欣怡 部会長)

- ・ 前回の会議からの変更点を説明する。企画概要の内容の部分について、ゼロから新たな仕組みを作るのは大変なので、既存の支援団体や「あーすフェスタかながわ」などと連携して、生徒たちが主体的に自分の文化を紹介し、交流するきっかけを作るといったことを追記した。
- ・ 備考欄に「あーすフェスタかながわ」のホームページのURLを追記した。

(柳 晴 実 委員長)

- ・ 社会福祉部会の提言案について説明をお願いしたい。

(リディア ワンタ ぶ かいちょう
部会長)

- ・ 社会福祉部会は結構修正したところがある。一つ目の提言のタイトルは、「外国人保護者と子どものための教育支援、発達障害の子どもに対する支援の課題解決と保護者への情報提供の拡充」に修正した。
- ・ 日本に来たばかりの子どもの中には、日本語が話せないために特別支援学級に通うことになってしまうケースがある。そういった実情を調査して、その結果を保護者と支援者などに公開してほしいという内容を記載した。
- ・ また、発達障害に関する情報を外国人にも分かりやすくするため、資料を作成し、説明会を多言語で開いてほしいということを記載した。現状は説明会があってもほとんど日本語で、外国人の保護者には理解しにくい。備考欄にも参考情報としてホームページのURLを追記した。
- ・ 外国人高齢者支援HUB ステーションと、集いの場づくりについては、以前社会福祉部会で多文化高齢社会ネットかながわ(TKNK)や県の福祉部門の方からヒアリングをしたので、その内容を踏まえて提言案を修正した。
- ・ また、高齢者にとって必要な情報をいつでも多言語で入手できるようにしてほしい、外国人高齢者が集う場所で、必要な時に必要なサービスを見つめられるようにしてほしいという趣旨で、提言案の内容を修正した。
- ・ 通訳ボランティアのための支援については、ボランティア団体の研修会に心理カウンセリングの研修を追加してほしいということと、外国人専用相談窓口の時間外に自動音声で対応できるようにすること、日本語支援や母語話者支援を続けるため、謝礼を上げてほしいということを記載している。

(柳 ちよん しる いいんちょう
柳 晴 実 委員長)

- ・ 社会福祉部会の提言案について補足する。二つ目の「外国人の高齢化に向き合う支援」で、(1)のタイトルの後ろに(設置に向けた検討会の実施)ということで括弧書きがあると思う。これは、設置を求めるとした方がよいか、設置に向けた検討会を実施してほしいとした方がよいか迷ったためである。
- ・ ①の下の方にも括弧の部分があって、設置を求めるとした方を提言の中身として出すのか、検討会を立ち上げてほしいというところに止めるのか、全体の意見が聞けたらよいと思っている。
- ・ 各部会から発表していただいた内容が、提言の中身としてまとめられていくことになるので、何か気づいたことや意見があればお願いしたい。
- ・ 次世代・教育部会で、理由の部分の記載がないのはなぜか。

(肖 欣怡 部会長)

- 理由は、提言案の「内容」に「背景」として書いてある。書き方を変えた方がよければ、部会のメンバーと相談して修正したいと思う。

(柳 晴 実 委員長)

- 最終報告書のまとめ方に関係してくると思うが、第11期の場合は理由を記載する欄があったので、第12期も同じまとめ方にするなら理由を考えていただくことになると思う。ほかに意見はあるか。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- 情報部会の二つ目の提言案について、一般の外国人の意見はどうやって集めるのか。メールか、ホームページでコメントする形を想定しているか。

(河 相宇 委員)

- 県のホームページや、ウェブフォーム、県内の各施設でも手書きで意見を書ける形にするなど、いろいろな方法で募集できるとよい。

(ロボ ナシメント 部会長)

- 国際課が所管する会議なので、国際課が窓口になると効率的だと思う。

(柳 晴 実 委員長)

- 次世代・教育部会の提言案で、「多文化共生」か「国際理解」かという話がずっと出ていて、オープン会議でも現場からの声があったと思う。
- 次世代・教育部会の問題意識としては、「国際理解」にこだわってやっていきたいということでこの形になっていると思う。
- ただ、国際理解クラブには、国籍や外国へのつながりは関係なく、すべての学生たちが参加して、その流れの中で相互理解、国際理解ができていけばよい、それが現場の問題意識として大事だということがあると思う。
- 理由のところに、そういった内容をもう少し具体的に書いた方が、今回の提言の狙いが伝わらと思う。今は理由が書かれていないが、なぜ相互理解という形で学校現場で実施してほしいのか、そこにいろいろな立場の生徒が参加することで成り立つものだということが書いてあると説得力が増すと思うので、できれば後で部会で相談していただけたらと思う。
- 外国人高齢者の支援に関する提言案について、Hub ステーションの設置と書いてしまってよいのか、検討会にとどめるべきか、御意見を伺いたい。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- Hub という言葉の意味が分からない。

(柳 晴 実 委員長)

- 金委員が考えてくれた文章に Hub ステーションという言葉が入っていたため、そのまま使っている。ロボ部会長から意味を説明してもらえるか。

(ロボ ナシメント 部会長)

- いろいろな動きがあるものが真ん中に集まる場所、という意味である。

(柳 晴 実 委員長)

- つなぎ目になる場所、人が入ってきて出ていったり、情報が入ってきて出ていくなど、その中心点を指すのだと思う。
- 提言をせっかく出すのであれば、設置まで言い切ってしまうてよい気もしているが、どう思うか。

(河 相宇 委員)

- 最終目的が設置なのであれば、設置でよいと思う。検討会とした場合、検討会の実施だけが目的になって、設置するための時間がさらに必要になってしまおうと思う。

(柳 晴 実 委員長)

- では、設置とする。
- 現状、提言項目は資料記載の七つだが、数日前にハリロバ委員から追加で話し合いたい内容があるという提案があった。今日は、時間的に具体的な中身まで話をすることができないが、今期の提言に入れるかどうかは、本日結論を出したいと考えている。ハリロバ委員から説明をお願いしたい。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- 友人の車で鎌倉駅前を通行していたとき、一方通行だと気付かず警察に止められた。友人は罰金を科され、免許証の点数を減点された。
- 鎌倉は有名な観光地で、外国人がたくさん来ている。警察はそれを認識しながら、標識を変えずに罰金を科したり減点するのは、詐欺に近いと思う。
- 免許証を海外で取得した外国人には、漢字の標識の意味が分からない。英語の標識を追加するか、漢字の下に英語の説明を追加してほしい。

りゅ ちょん しる いんちよう
(柳 晴 実 委員長)

- ・ 提案の連絡をいただいた後に事務局とも相談して、交通標識について調べたので、事務局から説明をお願いしたい。

じむきょく
(事務局)

- ・ 日本の標識は種類が多く、大きく分けて4種類ある。①案内標識（例：経路案内）、②警戒標識（例：交差点あり）、③規制標識（例：一方通行）、④指示標識（例：自転車横断帯）である。
- ・ ①案内標識については、静岡県なら「Shizuoka Pref.」、国道〇〇号なら「Route 〇〇」など、英語の併記が増えている。②警戒標識、③規制標識、④指示標識は、スペースの関係もあると思うが、ほぼ入っていない。
- ・ 日本の道路は、国が管理している道路と、都道府県が管理している道路、市町村が管理している道路がある。標識はさらに複雑で、案内標識と警戒標識は、国道なら国、県道なら県、市町村道なら市町村が管理している。
- ・ 規制標識や指示標識は、都道府県の公安委員会（警察）が管理している場合と、国、都道府県、市町村が管理している場合がある。
- ・ 神奈川県が単独で変えたいと言っても、国全体に関わる問題なので、難しい。案内標識については、訪日外国人旅行者の増加を受けて、国が分かりやすい案内を入れるよう方針を示したので、日本中で対応している。それ以外の標識は対応が進んでいないのが現状である。
- ・ 南アフリカから来日した人とこの問題について話したところ、日本の標識は世界の標識と違う部分が多いとのことだった。例えば「止まれ」の標識は、日本では逆三角形だが、海外では八角形が一般的である。一方通行の標識も、矢印が示されているだけでは、そちらに何かがあるのかと思うだけで、意味が分からない人も多いと思うという話があった。
- ・ 標識をどう改善していくかという問題は、国全体で検討する必要があると思う。現状として案内標識は対応が進んでいるが、一方通行などの規制標識は対応できていない。

りゅ ちょん しる いんちよう
(柳 晴 実 委員長)

- ・ 標識の表示内容を決めるところと、設置するところも担当が違うと思う。これを第12期の提言に盛り込むのかどうか、各委員の意見を伺いたい。
- ・ ハリロバ委員は、今期の提言に入れたいのか。入れるならどの部会か。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- ・ 社会福祉部会の提言に入れたい。情報部会でもよい。

(ロボ ナシメント 部会長)

- ・ 入れてもよいが、具体的な内容がよく分からない。ハリロバ委員が把握している内容を提言として書いてもらえるなら、入れることはできると思う。

(蒋 香梅 委員)

- ・ 確認したい。友人の方は、免許証を持っていたのか。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- ・ ロシアの免許証を持っていた。

(蒋 香梅 委員)

- ・ 日本の免許証であれば、標識の意味は教習所で習う。個人的な意見としては、今期が難しければ、次期の提言に入れるとよいと思う。

(ロボ ナシメント 部会長)

- ・ 次期の提言に入れたとしても、事務局から話があったように、神奈川県だけでは変えることができない問題である。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- ・ 県から国に依頼することはできる。個人が国に依頼しても実現は難しい。

(ロボ ナシメント 部会長)

- ・ すぐには解決できない問題である。日本政府の対応はゆっくりなので、数年間はかかると思う。県に提言した場合、県のどの部署が対応するか分からないが、国土交通省などがその問題を取り上げないと進まないと思う。
- ・ 国全体の課題であるため、私たちが提言しても、そんなに影響を及ぼすことはないと思う。それを考慮したうえで、どうするのがよいか考えて提言しないと、あまり意味がないと思う。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- ・ 何もしない方がよいということか。

(ロボ ナシメント 部会長)

- ・ そうではなく、どのようなやり方が適切かを考えないといけない。提言

を出せばすぐにうまくいくというものではない。政府がどの課題をどのように取り上げて対応しているか、まずはそれを調べないといけない。

- ・ 提言として入れるだけでは、単発的な対応で終わると思う。

(柳 晴 実 委員長)

- ・ 声を上げていくことには意味があると思う。ただ、どういう形でどういふところに向かってどのように声を上げるべきか、効果的な方法を考えた方がよいという意味だと思う。
- ・ 個人的な意見としては、この七つの提言を作るだけでも2年かかっている。皆で問題意識を出し合って、県に出す提言としてよいのかどうか話し合い、中身を詰めてきて、いろいろな方の意見を聞いてこの内容になっている。
- ・ そうした状況がある中で、今日話したから今日提言に入れるというのは、難しいと思う。提言するのであればきちんと議論をして、どこに向かってどういう中身にしたらよいか話をしたうえで、第12期の委員の提言としてまとめなければいけない。それをするには時間が足りないと思っている。
- ・ 今回の提言ではなく、違う機会では何かそれを問題意識として伝えることを考えた方がよいのではないかなと思う。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- ・ 自分はもう少しで日本国籍を取得する予定であるため、第13期には参加できず焦っている。この出来事が2年前にあったら2年前に言っているが、最近気づいたことであるため、このタイミングで提言に入れたと思った。

(柳 晴 実 委員長)

- ・ 外国籍県民かながわ会議は、神奈川県に住んでいる外国籍の住民が声を上げる場として存在していると思う。日本国籍を持っていないがゆえに、自分の意見を県に伝える機会がない人たちがいて、そうした人たちの意見は反映するためにできた会議だと思う。
- ・ 第13期に参加できないので焦っているという話があったが、日本国籍に変わったら声を上げる場が別にあるのではないかなと思う。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- ・ 日本人として声を上げる場所は、外国人の問題には関心がない。外国人は外国人で、日本人は日本人。日本人は漢字を読めるので、道路標識の問題はどうでもよいと思われる。

(柳 晴 実 委員長)

- ・ 意見を出していくことに不安がある、対応してもらえないのではないかと
いう気持ちもあるということか。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- ・ そうである。

(レ ダンコア 委員)

- ・ 例えば「あーすフェスタかながわ」のフォーラムで、道路標識の問題を
提示するところから始めてもよいと思う。
- ・ 今回の話を聞いて、県民の声を反映する体制が必要ではないかと思った。
メールなどで意見を集めて、一定期間で集計してどのような問題があるか、
同じ問題が繰り返しあがっていれば解決が必要と判断するなど、時間はかか
ると思うが、そういう仕組みがあるとよい。
- ・ 今回の道路標識については、一つの意見だが、何か月、何年もそのよう
な課題が繰り返しあがれば、県にも解決すべき課題だと認識されると思う。

(柳 晴 実 委員長)

- ・ その点は、今期の河委員の提言に含まれている。意見をどう集めて提言に
活かしていくかということは、この提言が形になれば、そこを窓口として
いろいろな意見が出てくると思う。
- ・ 意見を集める際に国籍が関係あるのかということ、そうではない。外国につ
ながる人も含めて、国籍に関係なく意見を出せるようになると思う。

(河 相宇 委員)

- ・ 先ほど御説明があったとおり、道路標識は国の方針に沿って県や市町村
が動いていると思うので、本当に早く改善したいのであれば、私は県では
なく直接国に伝えるべき内容だと思う。
- ・ また、日本人でも外国人のために活動している方もいると思う。日本人に
なるのであれば尚更、国会議員や国土交通省に問合せたりすれば、会って
話を聞いてくれる人もいるかもしれない。そういった活動の方が早く実現
できるのではないかと思う。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- ・ 私はそういったことはしない。

(祁 静 委員)

- ・ 今回の提言に含めるかどうかはともかく、ハリロバ委員は英語の標識を加えたいとのことだった。確かに英語圏の方には便利だと思うが、情報部会では多言語への対応についてずっと話し合ってきた。
- ・ 標識はスペースも限られるので、もしこれから提案する機会があれば、英語だけではなく、標識自体をどこの国の方でも、日本語が読めなくても分かりやすく改善するよう提案してもらおうとよいと思う。

(柳 晴 実 委員長)

- ・ 今期については提言の中に含めることはせず、「あーすフェスタかながわ」など、いろいろなイベントなどの機会を活用して、こういう問題があるということを発信してもらったり、次の第13期でこの問題が大事だという話になったら、その中で提言に含めることもありうると思う。
- ・ ハリロバ委員自身が感じたことなので、御自身がいろいろな機会で発言し続けて、行動することが一番大事だと思う。おかしいと思うところを周りに伝えることからすべてが始まる。その気持ちは持ち続けてもらって、それぞれができることをそれぞれが考えるということをお願いできればと思う。

(レ ダンコア 委員)

- ・ Facebook ページや X のアカウントなど、自分の意見を主張したければ、その課題に関するページを作って意見を広めるのも一つの選択肢だと思う。

(ハリロバ ナタリア 委員)

- ・ 私はこの会議の委員として活動していて、その中で困っている外国人の意見を共有した。なぜ個人として自分の時間を使わなければいけないのか。

(柳 晴 実 委員長)

- ・ 外国籍県民かながわ会議以外の会議もある。例えば東京都大田区には、多文化共生推進協議会という会議があり、大田区の住民が委員になって、多文化共生について考える会議をしている。
- ・ そういうところであれば、会議に参加しながら意見を形にしていけることができるかもしれない。どんな場があるかは探したうえで、どれを取るかはハリロバ委員次第ではあるが、そういう形でやっていく方法はあると思う。
- ・ 時間がなくなってきたので、次の話に進んでもよいか。

(河 相宇 委員)

- ・ 提言の内容について、一つ意見がある。
- ・ 社会福祉部会の「外国人の高齢化に向き合う支援」の提言で、理由のところに、「日本政府は外国人を使い捨ての労働力として見ている」といった刺激的な表現があるので、もう少しソフトな表現にした方がよいと思う。

(柳 晴 実 委員長)

- ・ 承知した。後ほど部会で相談する。
- ・ 次に、最終報告書の構成と副題について話したい。参考資料として、第11期の最終報告書を配布している。これを見ながら今回どういう形にするか相談したい。第11期の構成について、事務局から説明をお願いしたい。

(事務局)

- ・ 第11期の最終報告書は、はじめに最終報告に関する委員長のコメントと、「今後によせて」ということで委員一同のコメントを載せている。
- ・ 次に、「提言項目及び提言の趣旨」ということで、第11期の提言全体の概要を記載している。その後、各部会の提言を順番に掲載している。
- ・ 資料の後半には、会議開催状況として活動状況を載せている。最後に、参考資料として外国人数の推移、要綱及び要領、委員名簿を載せている。

(柳 晴 実 委員長)

- ・ 最終報告書の構成は過去から同様の形式なので、この部分は絶対に変えてほしいという意見がなければ、この形で行きたいと思うが、問題ないか。

(委員一同)

- ・ 異議なし。

(柳 晴 実 委員長)

- ・ それでは、第11期と同じ構成で作成することとする。
- ・ この後の部会では、その構成で作成するに当たり、提言の内容に過不足がないか確認してほしい。また、提言の掲載順についても話し合ってもらいたい。
- ・ また、社会福祉部会では県の福祉部局に話を聞くなど、個別に活動した部分もあるので、そういう実績があれば、部会でまとめて教えてほしい。
- ・ 次に、提言の副題を決めたい。各委員に考えていただいた副題の候補を、委員長から読み上げていただく。

(^{ゆう} 大達 ^{ふくい} 副委員長)

- ・ ^{かながわけん} 神奈川県 ^{けんしょう} の ^い 県章 “ともに生きる” の ^{じつげん} 実現にむけて
- ・ ^{かながわけん} 神奈川県 ^{けんしょう} の ^い 県章 “ともに生きる” を ^{じつげん} 実現するために
- ・ ^{じゅうみん} すべての ^{しあわ} 住民が ^く 幸せに暮らせる ^{かながわ} 神奈川に！
- ・ ^{たぶん} 多文化 ^{かきょうせい} 共生 ^{ちいき} の ^{はっそう} 地域づくりの ^{はっそう} 発想
- ・ ^{けんみん} すべての ^{あんぜん} 県民の ^{あんしん} 安全・^{せいかつ} 安心な ^{かながわ} 生活へ
- ・ ^{けんみん} すべての ^{あんぜん} 県民の ^{あんしん} 安全・^{せいかつ} 安心な ^{かながわ} 生活、^{かながわ} 神奈川
- ・ ^{たぶん} 多文化 ^{かきょうせい} 共生 ^{じゅうじつかん} の ^{じつげん} 充実感を ^{じつげん} 実現
- ・ ^{たぶん} 多文化 ^{かきょうせい} 共生 ^{じゅうじつかん} の ^{かながわ} 充実感へ ^{かながわ} 神奈川
- ・ ^{しゃかい} インクルーシブ ^{かながわ} 社会へ、^{かながわ} 神奈川
- ・ ^{みらい} 未来の ^す デジタルで、^{かながわ} 住みやすい ^{かながわ} 神奈川へ
- ・ ^{とも} 共に ^い 生きる、^{かながわ} かながわ
- ・ ^{だれ} 誰もが ^す 住みやすい ^{かながわ} 神奈川を ^{めざ} 目指して
- ・ ^{ちが} 違いを ^こ 超えて ^{とも} 共に ^い 生きる ^{しゃかい} 社会を ^{めざ} 目指して
- ・ ^{ぶんか} 文化の ^{ちが} 違いが ^{あた} つなぐ ^{きず} 新しい ^{きず} 絆
- ・ ^{たぶん} 多文化 ^{かりかい} 理解と ^{きょうかん} 共感 ^{きず} で ^{みらい} 築く ^{みらい} 未来
- ・ ^{だれ} 誰でも ^す 住みやすい ^{かながわ} 神奈川に ^む 向けて
- ・ ^{かながわ} 神奈川の ^{みらい} 未来を ^{かんが} 考えて、^{けんみん} 県民の ^い 意を ^{そんちょう} 尊重する
- ・ ^{いぶんか} 異文化と ^{とも} 共に ^{つく} 創る ^{ゆた} 豊かな ^{しゃかい} 社会 in Kanagawa
- ・ ^{たよう} 多様な ^{ひとびと} 人々と ^{とも} 共に ^{あゆ} 歩む ^{あゆ} かながわ
- ・ ^{たぶん} 多文化 ^{かきょうせい} 共生 ^よ に ^そ 寄り添う ^{しゃかい} 社会 ^{つく} 創り

(^ぶ ナシメント ^{かいちょう} 部会長)

- ・ ^{ていしゅつ} 提出した ^{さいしゅうほうこくしょ} 最終報告書は ^{だれ} 誰が ^よ 読むのか。ホームページに ^{けいさい} 掲載されるのか。

(^{りゅう} 晴実 ^{しる} 委員長)

- ・ ^{さいしゅうほうこくしょ} 最終報告書は、^{ほうこくしき} 報告式で ^ち 知事に ^{ちよく} 直接手渡しする。国際課のホームページにも ^{けいさい} 掲載される。それ以外の ^{いがい} 発表の場としては、^{はっぴょう} あーすフェスタ ^ば かながわが ^{りよう} 利用できるが、^{ことし} 今年 ^{かたち} どういう ^{はっぴょう} 形で ^き 発表するかはまだ ^き 決まっていない。

(^ぶ ナシメント ^{かいちょう} 部会長)

- ・ ^{ていしゅつご} 提出後の ^{なが} 流れは ^{なが} どうなるのか。

(^{じむきょく} 事務局)

- ・ ^{ていげん} 提言の内容に応じて、^{ないよう} 国際課や ^{おう} 県庁内の ^{こくさいか} 所属に ^{けんちょうない} 割振りして、^{しよぞく} 最終報告書 ^{わりふ} さいしゅうほうこくしょ

を共有する。各所属に施策化の検討を依頼して、検討を進めることになる。

(ロボ ナシメント 部会長)

- ・ ホームページには、PDFファイルで掲載するのか。

(事務局)

- ・ PDFファイルで掲載する。

(ロボ ナシメント 部会長)

- ・ 写真は載せないのか。

(事務局)

- ・ 情報部会に関しては、提言の中に画面キャプチャした画像を入れていただいたので、そのまま載せる。

(ロボ ナシメント 部会長)

- ・ なぜ質問したかという、副題と関係があるからである。例えば「ともに生きる」を選んだ場合、県民の写真と一緒に掲載されていなければ、読んだ人に響くかどうか分からない。誰と「ともに生きる」のかが伝わらない。
- ・ 例えば外国人と日本人の写真、いろいろな文化を持つ人の写真を載せたら、「ともに生きる」というイメージが湧いてくる。

(柳 晴 実 委員長)

- ・ ロボ部会長の意見も踏まえたうえで、副題の候補の数が多いので、投票で決めたいと思う。

[投票実施、委員による協議]

(柳 晴 実 委員長)

- ・ 副題は「多文化理解と共感で築く未来～すべての県民が住みやすい神奈川～」とする。

3 部会別協議

<情報部会>

(ロボ ナシメント 部会長)

- ・ 一つ目と三つ目の提言は外国籍県民の生活に関するもの、二つ目は会議の仕組みに関するものである。提言の順番について、何か意見はあるか。

(^き 静 ^{いいん} 委員)

- ・ このままの^{じゅんばん} 順番でよいのではないか。 (^{いちどう い ぎ} 一同異議なし)

(ロボ ナシメント ^{ぶ かいちょう} 部会長)

- ・ このままの^{じゅんばん} 順番とする。^{つぎ} 次に、^{ていげん} 提言の^{しゅし} 趣旨について^{はな} 話したい。^{だい き} 第11期の^{さいしゅうほうこくしょ} 最終報告書は、^{ていげん} 提言の^{しゅし} 趣旨を^{かんけつ} 簡潔に^か 書いている^{おお} ものが多い。

(^{じむきよく} 事務局)

- ・ ^{ないよう} 内容を^{ばっすい} 抜粋して^{きさい} 記載してもよい^{おも} と思う。

(ロボ ナシメント ^{ぶ かいちょう} 部会長)

- ・ ^{なに} 何をしてほしいかだけでなく、^{ひつよう} なぜ必要な^わ のかが分かるようにしたい。

(^は 相宇 ^{いいん} 委員)

- ・ ^{ふた め} 二つ目の^{ていげん} 提言については、^{ぐたいてき} 具体的な^{ないよう} 内容を^{くわ} 加えたい。^{たと} 例えば、^{ほうほう} どのような^{いけん} 方法で^{あつ} 意見を^{ふか ぼ} 集めるの^{ていげん} かなどを^{も こ} 深彫りして^{おも} 提言に盛り込みたい。

(ロボ ナシメント ^{ぶ かいちょう} 部会長)

- ・ ^{かいぎ} 会議の^{いいん} 委員以外の^{いけん} 意見も^{たいせつ} 大切なので、^い それを^{おも} 入れるとよいと思う。

(^は 相宇 ^{いいん} 委員)

- ・ 「^{かいぎ} 会議の^{いいん} 委員以外の^{いけん} 意見を^{はばひろ} 幅広く^{あつ} 集める」といった^{ないよう} 内容を^{ついか} 追加する。

(^き 静 ^{いいん} 委員)

- ・ 「^{いけん ぼこ} デジタル意見箱の^{せっち} 設置」というところまではいかないか。

(^は 相宇 ^{いいん} 委員)

- ・ ^{かいぎ} 会議の^{ぎじろく} 議事録を^{けいさい} 掲載している^み ページがある^{かた む} のので、^{ついか} ページを^{いけん} 見た^だ 方向^{つく} けに、^{おも} 追加で^{おも} 意見を出せる^{おも} フォームを^{おも} 作っても^{おも} らってもよいと思う。

(^{じむきよく} 事務局)

- ・ ^{けんみん} 県民が^{いけん} 意見できる「^{ていあん} わたしの提案」というものがあるが、それとは^{べつ} 別か。

(^は 相宇 ^{いいん} 委員)

- ・ ^{がいこくじんげんてい} 外国人限定で、^{かいぎ} 会議の^{いいん} 委員が^{はな} 話し合^あ って^{ていげん} こういう^{つく} 提言を^{いいん} 作ったが、^い 委員^{いけん} 以外からも^{ていげん} こういう^{ほう} 意見がある、^{いけん} こういう^{あつ} 提言をした^{あしが} 方が^{つか} よい^{おも} のではという^{おも} 意見を集める^{おも} 足掛かりに^{おも} 使えればと思^{おも} っている。

(^き 祢 ^{せい} 静 ^{いいん} 委員)

- ・ 「わたしの^{ていあん}提案」に、^{がいこく} 外国^{かた}の方から^{ぼこくご} 母国語^{いけん}の意見^{とど}が届くことはあるのか。

(^{じむきょく} 事務局)

- ・ よくある。^{こくさいかいがい} 国際課以外にも^{とど}届いているかもしれない。
- ・ この^{ていげんないよう} 提言内容だと、^{こくさいか} 国際課で^{あつ} 集めた^{いけん} 意見を^{かくか} 各課に^ふ 振る^{さぎょう} 作業と、^{かいとうないよう} 回答内容^{こくさいか} を^{もど} 国際課に^{さぎょう} 戻す^{はっせい} 作業が発生することになる。今までは^{いま} 自分たちの^{じぶん} 所属^{しよぞく} で^{かんけつ} 完結^{こくさいか} してきたものを^{じょうほうていきよう} 国際課に^{あら} 情報提供^{じむふたん} するという^{はっせい} 新たな^{はっせい} 事務負担が発生する。
- ・ この^{ていげん} 提言だと、^{こくさいか} 国際課に^{いちどしゅうやく} 一度^{いけん} 集約^{いけん} しなければ^{いけん} いけないので、「わたしの^{ていあん} 提案」より^{しく} よい^{てん} 仕組みに^{けんとう} できるのかという^{けんとう} 点は^{けんとう} 検討^{けんとう} しないといけない。

(^き 祢 ^{せい} 静 ^{いいん} 委員)

- ・ 「わたしの^{ていあん} 提案」に、^{ぼこくご} 母国語でOK^わ ということが^か 分かるように^{いま} 書くと、^{いま} 今^{おお} より^{おお} 多くなるかもしれない。それを^{くわ} 加えるだけで^{いけん} よいかも^{いけん} かもしれないし、^{いけん} 提言^{いけん} の^{いけん} とおり^{いけん} やった^{いけん} ほうが^{いけん} よいかも^{いけん} かもしれないし、^{いけん} そこは^{いけん} 検討^{けんとう} しないといけない。

(^は さん ^う 河 ^{いいん} 相宇 委員)

- ・ 「わたしの^{ていあん} 提案」は、^{かいとう} すべて^{かいとう} 回答^{かいとう} しているのか。

(^{じむきょく} 事務局)

- ・ 「^{かいとうきぼう} 回答希望」があれば^{かいとう} 回答^{がいこく} している。^{かた} 外国の方から^{かた} ということであれば、^{ちよつきん} 直近だと^{かた} ウクライナの方からも^{えいご} 英語^き で^き 来たりも^き している。
- ・ Google^{ほんやく} 翻訳^{やく} で^{ぶんしやう} 訳したような^{ほうほう} 文章^き もあるが、^き いろいろな^き 方法^き で^き 来ている。

(^き 祢 ^{せい} 静 ^{いいん} 委員)

- ・ ^{がんば} 頑張って^{つた} 伝えようとして^{おも} いるのだと思う。この^{ていげん} 提言により、^{いけん} もしかすると^{いけん} 今より^{いけん} 多くなるかもしれない。

(^{じむきょく} 事務局)

- ・ 「わたしの^{ていあん} 提案」という^{しく} 仕組みがあることを^ふ 踏まえたうえで、^{ぶんしやう} 文章^{なお} を^{なお} 直^{なお} してもらえるとよい。

(^は さん ^う 河 ^{いいん} 相宇 委員)

- ・ ^か 過去の^か 提言の^{ていげん} 施策^{けんとう} 化^{けんとう} 状^{けんとう} 況^{けんとう} について、^{けんとう} いつまでに^{けんとう} 検討^{けんとう} して、^{けんとう} 検討^{けんとう} した^{けんとう} 結果^{けんとう} どうだったのか、^{ふさいよう} なぜ^{ぐたいてき} 不採用^{こうかい} なのか^{こうかい} 具体的に^{ていげん} 公開^{ていげん} してほしいという^{ていげん} 提言^{ていげん} に^{ていげん} した^{ていげん} 場合^{ていげん} 、^{ていげん} 現実性^{ていげん} はあるか。

(事務局)

- ・ 各所管課の状況もあるので、今以上の記載は難しいかもしれない。

(河相宇委員)

- ・ 第11期の提言は検討しているのか。

(事務局)

- ・ 各所管課に提言内容を伝達しているので、既に検討は始めている。

(ロボ ナシメント 部会長)

- ・ 今後の流れはどうなるのか。第11期の最終報告書のような形で、順番はこのままいくとして、この内容を書いていく形か。

(事務局)

- ・ 県から、報告書の様式を共有し、内容を記載していただく形になるので、御対応いただきたい。
- ・ 先ほどロボ部会長が言っていた、外国人と日本人が分かる写真を載せたということであれば、肖像権などに注意してもらえれば問題ない。

(祁 静 委員)

- ・ 会議中の写真であれば、各委員の許可が取れると思う。

(ロボ ナシメント 部会長)

- ・ 情報がどのような見え方になるか気になっている。第11期の報告書は、ただの報告書でしかないので、言葉と写真を載せ、人の表情が見えるようなものにしてもらえたら、読んでいる人にも伝わりやすくなると思う。

(事務局)

- ・ 全体共有の場があれば、発言してもらってよい。

(祁 静 委員)

- ・ この形式が定番になっていると思うが、情報量が多い。

(事務局)

- ・ 委員の皆さんに余裕があれば、説明用のパワーポイントを作る手もある。

(ロボ ナシメント 部会長)

- ・ 確かにそのとおり。写真があると伝えたいことが明確になる。

＜次世代・教育部会＞

(肖 欣怡 部会長)

- ・ 内容は基本的にこのままでよい。

(レ ダンコア 委員)

- ・ なぜ高校生にフォーカスするのか、理由を強調して書いた方がよい。
- ・ 小・中学校には国際教室があるが、高校にはないため、そのフォローが必要だという点を明確にした方がよい。

(肖 欣怡 部会長)

- ・ 小・中学校からの連続性を考えて、高校生を対象に絞るということか。

(レ ダンコア 委員)

- ・ そうである。書く場所は、理由でも背景でもよい。

(蔣 香梅 委員)

- ・ 理由に書いた方がよいと思う。

(肖 欣怡 部会長)

- ・ 理由の書き方について意見を伺いたい。文章の順序を整えて、提言の理由を詳しく書いた方がよい。

(兪 大達 副委員長)

- ・ 教育現場にはいろいろな人が集まってくる。教育活動はハブであり、学校現場を活用することで、社会への発信につながる。

(肖 欣怡 部会長)

- ・ あーすフェスタで支援団体と連携する企画は、ゼロから始めるのはハードルが高く、負担が大きい。既存のネットワークを活用した方がやりやすく、教育現場も受け入れやすい。そういう趣旨で、文章を修正したい。

(レ ダンコア 委員)

- ・ 現状の提言案を、最終報告にどう反映するか、具体的に確認したい。
- ・ 趣旨には、目的の一部を書く。具体的な内容には、企画概要と計画の方向性を書く。提言の理由は追加しないといけませんが、背景に書いている内容は、理由の一部としても問題ないと思う。

(肖 欣怡 部会長)

- ・ 理由には、先ほど出てきた意見をもう少し追加する。

(蔣 香梅 委員)

- ・ 背景には二つの項目が書かれているが、どちらが理由か。

(レ ダンコア 委員)

- ・ どちらも理由に書くとよいと思う。

(蔣 香梅 委員)

- ・ 小・中学校から、高校に継続できる環境を作るといったことを書く。

(兪 大達 副委員長)

- ・ 大きく修正しなくても、現状の記載内容を各項目に移せば問題ない。

(レ ダンコア 委員)

- ・ 前期の提言では、参考文献の記載が多い。

(肖 欣怡 部会長)

- ・ もし何か記載した方がよいものがあれば、入れておく。

(レ ダンコア 委員)

- ・ 例えば、小学校の国際教室のホームページのURLを入れた方がよい。

(兪 大達 副委員長)

- ・ 神奈川県 of 県立高校のホームページも記載した方がよい。

(レ ダンコア 委員)

- ・ 興味のある人がすぐに情報を見られるようにした方がよい。
- ・ 既存の取組と連携したいと考えているので、そのような取組を行っている団体のサイトも追加した方がよい。

(蔣 香梅 委員)

- ・ ME-net を載せるか。

(肖 欣怡 部会長)

- ・ Me-net の了承をいただいて掲載し、イメージはこういったものであるとわかるようにする。

(レ ダンコア 委員)

- ・ 一般公開されているホームページなので、そのまま掲載しても問題ない。

(肖 欣怡 部会長)

- ・ 先ほど話に出た国際教室は、小学校の国際教室か。

(レ ダンコア 委員)

- ・ 小学校の中にある。横浜市教育委員会が国際教室を設置している。

(蔣 香梅 委員)

- ・ 川崎市も設置している。

(肖 欣怡 部会長)

- ・ リンクが分かれば共有してほしい。備考欄に記載したいと思う。
- ・ 内容について全体会議で出た意見で、対象は高校生のみと書いているが、ここに国籍を問わず誰でも参加できるということを補足で入れた方が分かりやすいか。高校生だけでよいか。

(蔣 香梅 委員)

- ・ 括弧書きで入れた方がよい。

(肖 欣怡 部会長)

- ・ 「高校生（国籍を問わず、誰でも参加できる）」と入れて強調する。
強調したいのは、国籍を問わず、日本人の生徒でも興味があれば参加できること。

<社会福祉部会>

(柳 晴 実 委員長)

- ・ 全体会議では、提言の中の「使い捨て」といった表現について、もう少しソフトな表現で書けないかという意見があった。

(リディア ワンタ 部会長)

- ・ 金委員に確認して修正する。

(柳 晴 実 委員長)

- ・ 最終報告書を作る上で、社会福祉部会で足りない部分はないか。

(事務局)

- ・ 大丈夫である。

(柳 晴 実 委員長)

- ・ できればTKNKや県の福祉部門にヒアリングした際の日程や内容についても、載せてもらえるとありがたい。

(事務局)

- ・ 会議開催状況の後ろに載せるか、社会福祉部会の提言の後ろに参考情報として載せるかどうかだと思う。

(柳 晴 実 委員長)

- ・ 後者の方がよいと思う。
- ・ どちらかというと高齢者に関する施策についてヒアリングしたという形になっているので、高齢者の提言の備考のところに入れてはどうか。
- ・ 「社会福祉部会では、現状把握や現場のニーズを知ることを目的として、以下のヒアリングを行った。」と書いて、ヒアリングを行った相手方と時期を列記するとよいと思う。
- ・ かながわ国際交流財団では様々なパンフレットを作っているが、このような感じで、外国人向けに発達障害に関して必要な情報を一つにまとめたものを多言語で作成して、手元に届くとよい。資料の作成例として、財団の資料を備考欄に載せてもよい。

4 全体会議

(柳 晴 実 委員長)

- ・ 最後にあーすフェスタかながわについて話したい。11月30日と12月1日に、本郷台のあーすぷらざで実施する。できれば県民会議の皆さんにはぜひ参加していただきたい。
- ・ 県民会議の提言も何らかの形で紹介したい。まだ企画が固まっていないが、現時点で考えている内容がお配りした資料に記載されている。
- ・ フォーラム部会の一つ目のテーマは、在留資格について。在留資格に関わる問題について専門家の話を聞いたり、現場の人たちの話を聞く予定。二つ目のテーマは、外国人高齢者と外国につながる若者について。次回の企画委員会でその案が通れば、具体的な中身を作っていく段階になる。

- ・ 私^{わたし}としては、県民会議^{けんみんかいぎ}でこういうことを話し合^{はな}っている^あと発言^{はつげん}して、そこから二つ目のテーマ^{ふため}が出てきているので、中身作りに積極的^{なかみづく}に参加^{せっきよくてき}していただきたい^{さんか}と思っている。企画委員会^{おも}には出られなくても、オンラインの会議^{きかくいいんかい}に参加^でして意見^{かいぎ}を出^{さんか}してもらったり、当日企画^{いけん}を手伝^だってもらえたらと思^{とうじつきかく}っている^{てつだ}。
- ・ ステージ部会^{ぶかい}は文化行^{ぶんかぎょうれつ}列、ファッションショー^{おこな}などを行^{おこな}う。コラボステージ^{おこな}として、いろいろな国^{くに}の打楽器^{だがつき}をステージ^{はつびょう}で発表^{はつびょう}してもらったり、世界の民族舞踊^{せかい}もコラボ^{みんぞくぶよう}して発表^{はつびょう}することを考^{かんが}えている。
- ・ そのほか、様々なワークショップ^{さまざま}や絵本^{えほん}の読^よみ聞^きかせ、専門家^{せんもんか}による在留相談^{ざいりゅうそうだん}のコーナー^{もう}なども設^{よてい}ける予定^{よてい}である。
- ・ ステージ^ぼのどこかの場^ばで、こ^{ていげん}ういう提言^だを出^だしますとい^{せつめい}うことを説^{せつめい}明^{めい}したり、ブース^{もう}を設^{ていげん}けて提言^{ないよう}の内容^{けいじ}について掲^{けいじ}示^しするとい^{かのうせい}ったことが可^か能^{のうせい}性^{せい}としでは考^{かんが}えられるので、できるだけ予^{よてい}定^あを空^あけておいていただきたい。

いじょう
(以上)